



1. はじめに

今回はベリーズについてお伝えしようと思います。今回の旅で訪れる国の中でもっともマイナーだと思われるこの国を知る日本人はまだまだ少ないと思います。アイドルグループのベリーズ工房はベリーズとはまったく関係がないようです。売られているTシャツの多くに、Belize という国名とは別に central america と所在地をご丁寧に描かれている様子は実に微笑ましいです。その謙虚な姿勢が私の心をつかみました。余談ですが、Belize という国名を文字で UNBELIZABLE と書かれた T シャツも販売されています。素晴らしい体格をした現地の女性がその T シャツを着ていて、思わず「いやいやこっちがアンベリーザブルですから」と呟いてしまったことは忘れられません。あの時ほどカメラを持ち歩いていなかったことを後悔した日はありませんでした。

そんなベリーズですが、この国は授業でかすかに扱ったことのある大沼ゼミには欠かすことのできない国です。詳しくは後述します。

1.1 旅のルート

MEXICO → Corozal (1泊) → Orange Walk (1泊) → Belize City (1泊) → Caye Caulker (8泊) → Dangriga (2泊) → Belmopan (1泊) → San Ignacio (1泊) → GUATEMALA



http://www.wordtravels.com/images/map/Belize_map.jpg

前半はメキシコからゆっくりと南下し、Corozal や Orange Walk といった何も見所のない町を楽しみました。Caye Caulker という小さい島ではダイビングの免許を取得し、後半はガリフナ族が暮らす Dangriga を訪ねてグアテマラへ抜けました。

ベリーズでは下の写真のようなチキンバスと呼ばれるローカルバスで移動しました。アメリカのスクールバスの払い下げであるこのスクールバスは衝撃を全く吸収せず、ガタガタと揺れます。でも割と道路がしっかりと舗装されているのでグアテマラよりは遥かに快適でした。



チキンバス



チキンバスの内部

2. 基本情報

面積：2万 2690 平方キロメートル（四国よりやや小さい）

人口：29 万人（2006 年 世銀）

独立：イギリスより 1981 年 9 月 21 日

通貨：ベリーズドル(BZ\$) 米ドル 1=2BZ\$の固定レート

GDP：11 億ドル（156 位）

一人当たり GDP：4,900 ドル

経済成長率：5.6%（2006 年 世銀）

インフレ率：3.1%（2004 年）、3.7%（2005 年）、4.3%（2006 年）（IMF）

失業率：11%（2005 年）、9.4%（2006 年）（ベリーズ統計局（SIB））

言語：英語（公用語）、スペイン語、クレオール語、マヤ語、ガリフナ語

民族：メスティーン 49%、クレオール 25%、マヤ 11%、ガリフナ 6%

その他 10%

宗教：キリスト教（カトリック、プロテスタント、英国国教会等）等

2.1 固定レート

この国の特徴のひとつがドルに対して固定相場制であることです。その影響か、どんな小さなレストランでも、ローカルバスでも米ドルを使うことができます。

正直「もうエルサルバドルやエクアドルのように国の通貨をドルにしてしまえばいいのに」と思うってしまうぐらい米ドルの流通度が高いです。しかし自国通貨はその国の誇りでもあることを考えるとベリーズドルも 30 万人のベリーズ人の誇りなのでしょう。キューバの田舎町で日本円を両替できることを知った時は私も日本人であることに少し誇りを感じました。ベリーズが通貨を米ドルに代えてしまわないことを祈りたいと思います。

2.2 英語圏

ベリーズは英語圏です。こんなにスペイン語圏の国々に囲まれているのに、この国だけ英語圏なので英語が通用します。なぜベリーズだけ英語圏なのかというと、旧英領だからです。英語であってもスペイン語訛りの英語、黒人の英語や中国人が話す英語など多様な発音が存在するので、聞き取れたり取れなかったりします。首都のベリーズシティで深夜に酔っ払った黒人に絡まれたときは「fuOk」という単語しか聞き取れず、何を言われているのかはまったくわかりませんでした。

3. 人種の多様さ

この国に訪れて最も感じたのが人種の多様性です。白人とラテンアメリカの先住民（インディオ）の混血であるメスティーソが多いのは他の国々と一緒なのですがベリーズでは更に中国人や黒人の姿も多く見ることができます。

そのためか話している言語も多彩です。公用語の英語はもちろん、メキシコやグアテマラとの国境の近くでは英語以上にスペイン語で会話している人が多く、中国語やよくわからない言語（クレオール語、マヤ語、ガリフナ語）も飛び交っています。

3.1 中国人の多さ

この国では中国人の姿が本当に多く見られました。特にスーパーなどはほぼ 100% 中国人経営と言っていいほどで、どんな町にも中華料理店があります。中国人経営のゲストハウスもありました。日本人も世界中で見ることができるようですが、旅行者が多く、中国人のように完全に地域社会に溶け込んでいるわけではありません。現地にコミュニティを作り、現地に根を張ったネットワークを構築している点が日本人よりもパワーを感じます。中国という大国のパワーを遠くはなれたベリーズで感じるようになるとは思ってもみませんでした。

聞いた話によると、昔ベリーズ政府が永住権をお金で売った際に飛びついたのが中国人で、その影響で現在でも多くの中国人がいるようです。香港が返還されるのを嫌って同じ元英国領のベリーズに移り住んだ人もいます。

3.2 黒人の多さ

ベリーズには多くの黒人が暮らしています。17 世紀から 18 世紀にアフリカから奴隷として連れて来られたアフリカ系黒人がルーツのクレオール人やカリブの島々から来た黒人とカリブ族の混血のガリフナ族が人口の 3 割を占めています。

特に南部の町、ダンリガはガリフナ族の里であり住民のほとんどがガリフナの人たちであり、それ以外は中国人か旅行者がちらほらと見受けられるぐらいでした。アフリカの田舎町に来たようだと言っているひともいました。



ダンリガ

3.3 日本人の少なさ

この国に二週間以上滞在して会った日本人は一組（女の子二人）だけです。他の国ではどこに行っても日本人に遭遇するので特筆して少ないと言えます。その理由をはっきりしています。ひとつには日本人はベリーズに入国するのにビザが必要だからです。そしてこのビザが **US50** ドルと高額であり、さらに出国するのに **US18.25** ドルの出国税が必要なので出費がかさんでしまいます。もうひとつは物価の高さがあげられます。周りの国と比べるとこの国の物価は非常に高く感じてしまいます。宿代は **15~20US** ドル、食事は千円以上することもあります。

4. キーカーカー

4.1 地上の楽園

ベリーズ唯一の都会ベリーズシティから 33 キロ、船で 30 分のところにキーカーカーという島があります。人口 800 人のこの小島に私は一週間以上滞在しました。キーカーカーの特徴は舗装道路が無く、車も消防車と工事用の車の二台しかないようです。道路にも海岸にも白い砂が敷かれ、真昼の強烈な太陽に照らされて目が痛いほどまぶしいです。島には大したものはないので、泳ぐか、うろうろ歩き回るか、夕日を眺める、お酒を飲むぐらいしかすることがないです。この島のテーマは下の写真にもあるように **go slow** です。



Go Slow



島のメインストリート

この島で私はダイビングのライセンスを取得したのですが、ある日の朝、ダイビングスクールに遅刻しそうになり早足で歩いていると現地の人に“Hey! What are you thinking! You’re in Caye Caulker! Not Tokyo. Go slow!”と怒られてしまいました。そのぐらいこの島ではゆっくりすることが義務付けられ、多くの人が Life is easy here と言っているような島がキーカーカーです。

4.2 ダイビングライセンス取得

このキーカーカーという島で私はダイビングの免許を取得しました。ブルーホールという直径 300 メートル、深さ 120 メートル以上の巨大なたて穴があることを知った私は、穴があったら入りたいならぬ「穴があったら潜りたい」と考えたので世界最大のスクーバ・ダイビング教育機関 PADI のライセンスを取得する決意をしました。



ブルーホール

http://digimaga.net/2007/09/amazing_holes.html

スクールを探し、日本の学生証で学割をしてくれた（交渉に5分以上かかった）ところに入校し、トレーニングを開始しました。うちの大学の学生証に英語で学校名が書いてあったらどんなにことが速やかに進んだことかと考えてしまいます。この学校には日本語のテキストもあったらしいのですが前の日本人が持って帰ってしまい私は全てのプロセスを英語で受けることになってしまいました。初期状態で ascent, descent, inhale, exhale という単語の意味すらわからなかった私が苦労したのは言うまでもありません。しかし一緒にライセンスの取得を目指した physics の PhD を取得中だというオランダ人カップルや同じ宿に泊まっていたバックパッカー達に助けをもらい、何とか取得することができました。ダイビングスキルよりも英語のほうが上達したような気がします。



オランダ人カップル

海の中は別世界が広がっていました。今まで映像や写真で海底の様子を目にしたことはありましたが、実際に自分の目で見た海底には想像を絶する美しい光景が広がっていました。地球という星の7割が海であることを考えると、本当の地球の姿とはむしろ海の中、海底にあるのではないかと考えてしまいます。

また実際にサンゴ礁を見ることで、今まで他人事のように感じてしまっていたサンゴ礁の白化現象などの海の環境問題が身近な問題に変わります。環境問題を考えるに当たって、自分自身の五感で実際に雄大な自然に触れることの重要性を認識させられた経験となりました。

4.3 マナティー

マナティーとはジュゴン目のマナティー科に属する大型の海棲哺乳動物です。このマナティーを見に行くツアーに私は参加しました。マナティーを見ることはこの旅の目的のひとつでした。私の高校時代の野球部の監督がマナティーと呼ばれていたのがその理由です。もちろんこの動物に似ているということではなく、愛するティーチャー略して愛ティーがそう呼ばれる由縁だと、少なくとも私は考えていました。

このマナティーツアーに参加しながら高校時代の恩師に習った素敵なことを思い出しました。それは「成功したら人のおかげ、失敗したら自分の責任」ということです。野球部時代にキャッチャーをしていた私は、たとえピッチャーが私の要求したコースに投げられずに、甘い、打ちやすい球を投げて打たれてしまった時でも監督に怒られていました。抑えたらピッチャーのおかげ、打たれたらキャッチャーの責任なのです。高校時代の私は若かったこともあり、「なんで俺が怒られなきゃいけないんだ」と反発して、ふてくされていました。しかし今になって振り返ってみると、何がおきても気持ちを楽に保つことができる、自分の支えとなる考え方を高校時代に学ぶことができました。この考え方を元にするると、失敗や身に起こる不幸をすべて自分の責任と考えることができるようになります。なので例えばグアテマラの田舎町のお祭りで財布を掏られても、ホームステイ先の子供にカメラのメモリを消去されても怒りを自分自身に向けることができるので、少し反省してすぐに気持ちを切り替えることができます。高校時代の監督に改めて感謝しなくてはいけないことを、マナティーを見つめながら思い出しました。

ジュゴン目のマナティーは、絶滅危惧種です。自然界には天敵は存在しないのですが、人間の進出が沿岸泥湿地域に生息地を狭めており、多くの個体がモーターボートのスクリューによって傷つけられているようです。マナティーは摂食中にしばしば釣り針や仕掛けなどを呑み込んでしまうことがあり、これらの異物がマナティーを傷つけることはないようですが、単繊維の釣り糸はこの動物の消化器官に詰まり、ゆっくりと死に至らせることがあるようです。絶滅危惧種のマナティーですがベリーズではマナティーの数が逆に増加しているようです。これはNGOによる保護活動やパトロールな

どの強化の成果のようです。実際にツアー中にもパトロールの船が一隻そばで待機していました。



マナティー

5. PACTについて

この国が大沼ゼミにとって欠かせないのは授業で取り上げたことがあるからです。覚えている人は少ないかもしれませんが、昨年度の授業の **Example** で昨年4年生が発表していたのです。ベリーズでは出国の際に外国人観光客から **PACT(Protected Area Conservation Trust) Fee** という環境税のようなものを徴収していることを取りあげる内容でした。これを昨年4年生が発表したときに大沼先生がお金を持っている観光客から環境保護に必要な費用を徴収するのはいいアイデアだとおっしゃっていたことを私ははっきりと覚えています。

ベリーズを訪れる観光客の多くが国立公園（海上にもある）で大自然を満喫することを目的にしていることを考えると観光客もあまり文句を言わずに **PACT** を支払うことが予想されます。しかしその反面、高い物価に加え、高い出国税にさらに上乗せする形で **PACT** を支払うので、収入の大部分を担う観光客を遠ざけてしまうことも考えられます。ベリーズ、グアテマラ間の国境越えを共にしたアイルランド人の **Shane** 君は終始『ベリーズは金のかかる国だ』とぶつぶつ文句を言っていました。ベリーズでは環境保護が成功しているようなので、総合的に考えるとこの政策は機能しているようです。

| | |
|-----------------------------|---------|
| 5:05 AM | |
| KENZO INABA Nationality: JP | |
| Passport No. M80262204 | |
| Receipt Type: Foreigner | |
| ----- | |
| Departure Processing Fee | \$30.00 |
| PACT Fee | \$7.50 |
| ----- | |
| Payment Method | cash |
| Total | \$37.50 |
| Cash | \$37.50 |

PACTのレシート

6.感想

人口 30 万人の小さな国なのにベリーズは様々な面を持っていました。隣接するメキシコやグアテマラとも極めて違うカラーを持った不思議な国でした。キューバは 10 年後、20 年後に訪れればまた違った国になっているような気がしましたが、ベリーズは 20 年後も今のベリーズのままでしょう。そうあって欲しいと感じる国でした。

またキーカーのホテルではスロベニア人のカップルと仲良くなり、旧ユーゴスラビアの戦争の話をしてきて自分にはまだまだ知らないことがいっぱいあることを自覚させられました。色々な国のひとと仲良くなると、もっと色々な国や地域の勉強をしなければならないと感じてしまいます。自分には知らないことが多すぎます。この旅をきっかけにもっと世界を知ろうとする人間になれそうです。



真中の二人がスロベニア人です

7.参考文献

外務省ホームページ <http://www.mofa.go.jp/Mofaj/area/belize/data.html>